

上天草市における釣りに着目した港空間のコンフリクトに関する研究

熊本大学 学生会員 ○東家正采 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

近年、漁村では、豊かな地域資源を有しているが活用不足であることが課題であると言われている。活用手段の一つとしてレジャーとしての釣りが挙げられるが、マナー問題等により釣り場の環境が混乱している。このような状況の中で、釣り人が利用する港において、各利用者の空間に対する心理作用を分析していく研究が必要であると考えた。本研究では釣りに着目した港空間におけるマナー問題等により起こるコンフリクトの実態を明らかにすることを目的とし、その為に利用者の港空間の利用意識を分析していく。

2. 上天草市における釣りの位置付け

(1) 上天草市の地勢

上天草市は有明海と八代海に接しており(図-1)、豊かな自然環境を有している。

(2) レジャーとしての釣り

コロナ禍では3密を避けられるレジャーとして人気を博した。一方でマナー・ルールの問題が顕在化し、漁師や住民とのトラブルに発展する事例も増えた。

(3) 釣りの視点から見た上天草市

上天草市は多くの港を有し、釣りに適した環境であ

る。また、令和3年に、釣りに特化した地域おこし協力隊を採用する¹⁾など、釣りを活用した地域おこしが活発な自治体である。

(4) 研究対象地

上天草市における三角港登立地区(以下、岩谷漁港)、野釜漁港、小島公園(図-1)を研究対象地とした。

3. 港空間における調査結果

本章では、岩谷漁港、野釜漁港、小島公園の住民、漁師、釣り人へのインタビュー調査と釣り人の行動観察調査を行い、得られたデータを整理した。

(1) 調査概要

a) 住民と漁師を対象としたインタビュー調査

調査対象者を表-1に、質問項目を表-2に示した。

b) 釣り人を対象としたインタビュー調査

調査の実現可能性を考慮し、3分程度の調査で釣り人の属性と問題だと捉えていることを聞いた。

c) 釣り人を対象とした行動観察調査

日の入り前後30分で調査を行い、駐車、移動、釣りの3種類の行動を記録した。

(2) 調査結果

a) 住民と漁師を対象としたインタビュー調査

表-1 インタビュー調査対象者の属性と調査日時

性別	年齢	出身	居住年数	所属	調査日時	
A	男	60代	岩谷	67年	区長 漁師	2022/10/22 11:00~12:00
B	男	70代	岩谷	70年	住民	2022/12/21 11:00~12:00
C	男	70代	野釜	70年	区長 漁師	2022/10/13 14:00~15:00
D	女	70代	野釜	70年	住民	2022/12/18 11:00~12:00
E	女	70代	野釜	66年	住民	2022/12/18 13:00~13:30
F	女	60代	芦北	35年	住民	2022/12/18 14:00~14:30
G	女	70代	野釜	50年	住民	2022/12/18 15:00~15:30
H	男	60代	姫戸	63年	漁師	2022/11/26 11:00~12:00
I	男	70代	姫戸	50年	区長	2022/10/22 15:00~15:30

表-2 質問項目

質問項目
① 普段の港をどのように使っていますか。
② あなたが感じている港の中の問題を教えてください。
③ 他の利用者や主体との関わりはありますか。 また、どのように思っていますか。



図-1 研究対象地の略図

調査で得られた音声データは全てICレコーダーで録音し、計443分の音声データを得た。全て文字起こしを行い、計99,281文字のテキストデータを得た。

b) 釣り人を対象としたインタビュー調査

現在調査途中であり、今後引き続き行う予定である。

c) 行動観察調査

どの対象地でも主に駐車場として利用されているスペースがあり、そこから移動して海に面した場所で釣りを行っていることが分かった。

(3) まとめ

漁師と住民は各対象地でそれぞれ、地域特性により異なる視点が得られた。一方で釣り人は各対象地で概ね同じ結果が得られ、どの対象地でも釣り場として見ている事が分かった。

4. 釣り場で起きたコンフリクトの空間分析

(1) 分析の視点

問題だと感じている事に関する発話を抽出し、場所に毎に整理し、評価に着目して分析を行った。

(2) 問題の捉え方に関する分析

立場や対象地ごとの指摘される問題やその評価、評価の視点の分析(表-2、図-2)を行った。

5. 港空間の利用意識に着目したコンフリクトに関する考察

本章では、3章で得られたデータと4章で行った分析をもとに考察を行う。

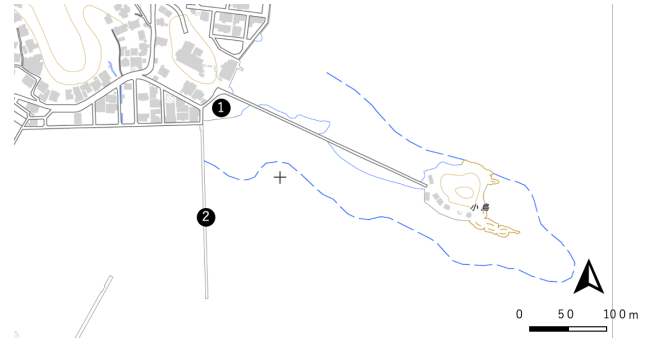


図-2 小島公園

(1) 各主体の港空間の利用意識

立場や対象地ごとに場の利用意識が異なる。

(2) コンフリクトに関する考察

場の使い方に着目した問題の捉え方の違いや問題発生地から生活空間の距離に着目した評価の違い、地域特性に着目した漁師の人の評価の違いについて考察していく予定である。

6. おわりに

釣り人を対象としたインタビュー調査及び行動観察調査を行い、分析、考察を行う予定である。

参考文献

1) 上天草市-地域おこし協力隊-地域おこし協力隊 明瀬智博さん(上天草市全域), <https://www.city.kamiamakusa.kumamoto.jp/q/aview/484/14997.html>, 2022. 12. 27 参照

表-2 小島公園における漁師・住民が捉える問題

場所	H氏				I氏				J氏			
	発話内容	対象者	評価	視点	発話内容	対象者	評価	視点	発話内容	対象者	評価	視点
① 駐車場	で、汚い話なんですけど、そこに駐車場があるんですけど、その際でおしこなんかするんですよ。近所の人たちが困るとですよ。	釣り人	困る	周辺の住民	あそこまで行かない人が多くて、トイレの問題が、多分これの裏(駐車場)でしてんじゃないかなって。	釣り人	臭いが気になる	住民	結局釣り人も色々釣りたいじゃないもんだから、子供連れで、そしてトイレが一番やっぱり、夏場がですね。	釣り人(子供連れ)		自身
	それはもう、うちあたりは感じんよ。ただ、この辺の人たちが車の騒音で、	釣り人	騒がしい	周辺の住民	ひどいね。あと自分たちで持ってきた弁当のカスが、出る時にはもう真ん中に置いといてますからね、持って帰ればいいのに。	釣り人	ゴミは持って帰って欲しい	自身	子供は待たないでいいんですけど、あ、でる一つ、大人はちょっとでも我慢してちょっとでも、行こうかってのができるけど、子供はそういうのがなかなか、	釣り人(子供連れ)		自身
					もう音や匂いや、声がね。そこそこに住んでる方が	釣り人	騒がしい・臭いが気になる	周辺の住民	釣り人だったらバケツ持ってるんだから、最後水で流してあげばいいんだけど。夏がひどい、ハエもすぐくるし。	釣り人(子供連れ)		自身
					住民からすれば、ここを無料駐車場として貸してるんで、それ(朝早くから集まる事)は何とも言うものはないですね。ただ、いっぱいのがこの道に止めてたりする人もいるけど。ただ、夜だけですね。夏場の夜が、騒ぐとかっていうのもあるんですね。冬場は窓を閉めとるっていうのも、あるんですけどね。都会と違って、夏場は開けっぱなしでいるもんだからですね。ちょっとうるさいのは特にですね。					釣り人		住民
② 堤防	住民がかごとかなんとか溝につけて飛ばすもんだから。	住民		漁師	結局、釣り糸が切れた後とか、ルアーや鉛などがトラポットのすぐそばに置かれていたり、あとはタバコの吸殻ですね。ここは多い。	釣り人	ゴミが多い・ルールを守ってほしい	住民	マナーの悪いのは、否極とて、冬場はいいけど、夏場はね。	釣り人	臭い	他の住民
	餌は餌に入れたまま置いていく人がおるもんだから。それを無くして欲しい。	釣り人	無くして欲しい	自身	釣って持って帰らん魚をここにポーンって、あと獲り魚あげたり、それよくないですね。食べカスが、匂いが、撒き付けみたいになっちゃうわけですね。野良猫がやってくるやう。	釣り人	臭いが気になる。野良猫が増える	住民	それと、釣った後のもつれた糸とかを捨てていたりとかが地域の人のすれば、	釣り人		住民
					やっぱり子供連れ連れてくる人たちがおるから、このうえに乗ったりしますからね。危ないなって思いますよ。それが心配ですね。	釣り人	心配	自身	きた時より綺麗にしてもらえたら、ちゃんと釣った後はバケツで水で綺麗に流していかないと、なんか、そのままでもハエとかくるんですけどね。	釣り人		住民
									結局どうも釣って釣り人が多いもんで、風次第で臭いが、ここ自体でじゃなくてもですね。	釣り人	臭い	住民
								余った品物って置いたらおかしなけど、捨てていく。	釣り人		住民	
								糸が釣ついたらそのままにしてしまると、危なか。	釣り人	危ない	自身	